「日向御前国姫」

三田村　幸翔

私は講談「日向御前 国姫物語」を聞いて、今まで身近に感じていた丸岡城を、これまでとは違った目で見るようになりました。私は丸岡に住んでいるので、丸岡城は普段から見ることができる、とても身近な存在です。小さいころから丸岡城を見たり、近くを通ったりすることもありました。そのため、丸岡城があることを当たり前のように感じていました。しかし、今回の講談を聞いて、丸岡城には自分が知らなかった多くの歴史や、そこに関わった人々の思いが残っているのだと改めて感じました。

特に心に残ったのは、国姫が厳しい時代の中で生きていたことです。現代の私たちは、自分の進路や生活について、自分の意思で決められることが多いです。しかし、昔の人々は、自分がしたいことだけを選んで生きることが難しく、家族や身分、時代の状況によって人生が大きく左右されていたのだと思います。そのような時代の中でも、国姫が家族や周りの人々を思いながら生きていたことを知り、とても強い女性だったのだと感じました。

また、今回の話を聞いて、丸岡城はただの観光名所ではないのだと思いました。今まで丸岡城を見るときは、天守の形や石垣などを見て「丸岡にある有名な城」というくらいに考えていました。しかし、そこには昔の人々の暮らしがあり、さまざまな出来事が起こり、一人一人の人生があったのだと思うと、見え方が大きく変わりました。自分が普段から見ている丸岡城の周りにも、国姫をはじめとする人々の歴史があったのだと考えると、とても神秘的な気持ちになりました。

さらに、丸岡に住んでいる自分だからこそ、地元の歴史をもっと大切にしたいと思いました。地元に住んでいると、身近にあるものほど、その価値や歴史に気づきにくいことがあります。今回の講談は、そんな自分にとって、丸岡のことを改めて知るきっかけになりました。これから丸岡城の前を通ったり、実際に城を見たりするときには、今回聞いた国姫の物語を思い出し、昔ここで暮らしていた人々がどのような思いを抱いていたのかを想像してみたいです。

そして、講談という形で　話を聞けたことも、とても印象に残りました。語り手の声の強弱や話し方によって、登場人物の気持ちやその場の緊張感が伝わってきました。教科書を読むだけでは分からない、歴史の人物の感情や物語の迫力を感じることができました。今回の「日向御前 国姫物語」を聞いて、歴史は年号や人物の名前を覚えるだけではなく、その時代を生きた人々の気持ちや人生を想像することも大切なのだと学びました。特に、丸岡に住んでいる自分にとって、地元にこのような歴史があることを知れたのは大きな発見でした。これからは丸岡城を当たり前の景色だと思わず、そこに残された歴史を大切にしながら、丸岡のことをもっと知っていきたいです。そして、今回知ったことを家族や友達にも伝え、地元の歴史に興味を持つ人が増えたらいいなと思いました。